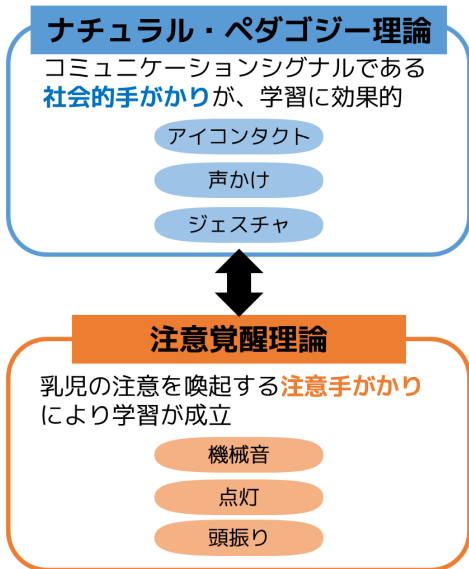


|              |   |
|--------------|---|
| <p>どんな研究</p> | <p>乳児は環境から得られる情報に基づき様々な知識を学んでいますが、その詳細な学習プロセスは明らかにされていません。本研究では、乳児の物体学習や言語獲得が、声かけや視線など養育者からの社会的手がかりによって促されることを実験心理学的アプローチにより明らかにしました。</p> |
| <p>どこが凄い</p> | <p>乳児の学習に社会的手がかりと注意手がかりのどちらが寄与するか議論がありましたが、学習プロセスを明確にする2種類のテストを行い社会的手がかりの重要性を実証しました。この結果は、人間の学習メカニズムをモデル化した「ナチュラル・ペダゴジー理論」を支持し発展させます。</p> |
| <p>めざす未来</p> | <p>効果的な学習に及ぼす要因やメカニズムを明らかにすることにより、ヒトが言語や知識をどのように習得するかに関する理論を確立し、ペアレントトレーニングや乳児の学習環境考案などの育児や教育支援に貢献することをめざしています。</p>                       |

乳児の学習理論

乳児の学習を助ける手がかりについて2つの学習理論が対立



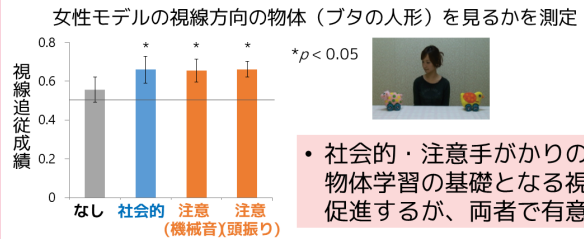
本研究のアプローチ

- 社会的手がかりと注意手がかりによる学習への影響を実験心理学的アプローチにより検証
- 各手がかりが付与された条件を設けて比較

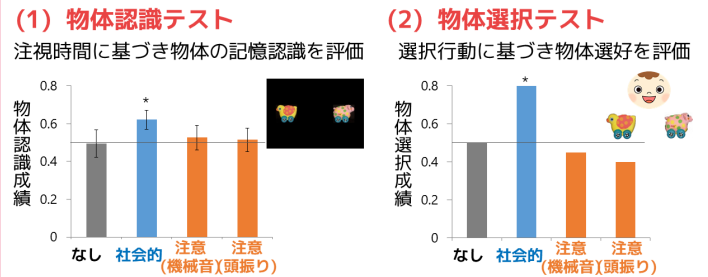


成果1：社会的手がかりの役割の明確化

■ 視線追従テスト

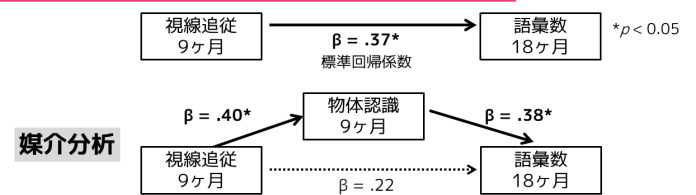


■ 物体学習テスト



- 社会的手がかりは物体学習場面において効果的
- ➔ ナチュラル・ペダゴジー理論を支持

成果2：語彙習得プロセスの解明



- 9ヶ月の視線追従頻度が物体認識を促し、18ヶ月の語彙数に影響
- ➔ 社会的手がかり（視線）と語彙獲得の関連性を発見

関連文献

[1] Y. Okumura, Y. Kanakogi, T. Kobayashi, S. Itakura, "Individual differences in object-processing explain the relationship between early gaze-following and later language development," *Cognition*, Vol. 166, pp. 418–424, 2017.

[2] Y. Okumura, Y. Kanakogi, T. Kobayashi, S. Itakura, "Ostension affects infant learning more than attention," *Cognition*, Vol. 195, 104082, 2020.

[3] 奥村優子, "乳児期における社会的学習: 誰からどのように学ぶのか," 東京大学出版会, 2020.

連絡先

奥村 優子 (Yuko Okumura) 協創情報研究部 インタラクシオン対話研究グループ  
Email: cs-openhouse-ml@hco.ntt.co.jp